

## 平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月10日

上場会社名 株式会社 AOKIホールディングス  
 コード番号 8214 URL <http://www.aoki-hd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木拓憲  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 中村憲侍  
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

上場取引所 東大

TEL 045-941-4888

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	97,701		5,370		6,115		2,294	
20年3月期第3四半期	94,035	15.5	7,865	12.6	8,219	5.9	4,028	9.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	49.96	49.95
20年3月期第3四半期	89.58	89.32

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	156,405	94,850	94,850	60.4	60.4	2,147.61
20年3月期	152,519	94,504	94,504	60.3	60.3	2,084.73

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 94,429百万円 20年3月期 91,933百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期		15.00		15.00	30.00
21年3月期		15.00			
21年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	132,300	1.3	8,300	33.9	9,000	30.9	3,000	46.4	68.23

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有  
 新規 1社(社名 株式会社AOKI) 除外 社(社名 )  
 (注) 詳細は、3ページ[定性的情報・財務諸表等]4. その他をご参照ください。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
 (注) 詳細は、3ページ[定性的情報・財務諸表等]4. その他をご参照ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)  
 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 以外の変更 有  
 (注) 詳細は、3ページ[定性的情報・財務諸表等]4. その他をご参照ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)  
 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 49,124,752株 20年3月期 49,124,752株  
 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 5,155,243株 20年3月期 5,026,087株  
 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 45,923,179株 20年3月期第3四半期 44,977,233株

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項  
 ・上記の業績予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。  
 ・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国から端を発した金融不安や円高による輸出産業をはじめとする企業業績の悪化等により景気後退が鮮明になり、雇用や所得環境の急激な悪化などにより、個人消費の落ち込みが続いております。

このような厳しい環境のもとで、当社グループは質の高い安定成長を図るため、以下のような諸施策を実施いたしました。

(ファッション事業)

AOKIでは、ベストなスタイリング専門店として、仕事、旅行、礼装であてにされる店を目指すとともに、お客様にとって厳しい生活環境のときこそAOKIの出番ととらえ、顧客満足の向上に努めてまいりました。

商品面では、お客様のニーズにお応えし、高品質でベストなスタイリングをよりリーズナブルな価格でご提案してまいりました。20代から30代のお客様には、「もてスリム」をキーワードにトータルスタイリングでの商品企画を、またミドル層には洗濯機でもシャワーでも洗える「シャワーウォッシュスーツ」や消臭効果のある「デオドラントスーツ」等の高品質商品を核商品と位置づけて提案してまいりました。営業面では、急激に変化する環境へ迅速に対応し、景況感に合わせたセール企画を実施するとともに、スタイリスト制度の更なる深耕などにより販売力の向上を図ってまいりました。店舗面では、当第3四半期に熊本への初出店、シナジーを活かしたM/Xとの複合出店、東京都区内への大型店等を含め、第3四半期累計で36店舗を新規出店する一方、2店舗を閉鎖いたしました。この結果、当第3四半期末の店舗数は415店舗(前期末381店舗)となっております。

ORIHICA(オリヒカ)は、20代から30代のニューファミリーをコアターゲットとし、着回しを重視した新しいビジネス&ビジカジスタイルを提案する商品企画・開発の継続と将来の事業規模拡大に備えた人材育成に注力いたしました。店舗面におきましては、重点出店エリアへ第3四半期累計で5店舗を新規出店した結果、当第3四半期末の店舗数は42店舗(前期末37店舗)となっております。

カジュアル衣料専門店M/X(エムエックス)は、「魅力ある商品をスタイリングで提案し、より豊かで楽しいカジュアルライフの創造を応援します」をコンセプトに、オリジナル商品の拡大を図るとともに、150坪のモデル店舗、AOKIとの複合出店を含め5店舗を新規出店し、1店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は38店舗(前期末34店舗)となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は、新規出店店舗が寄与し638億32百万円(前年同期比0.6%増)、営業利益は、急激な景気減速に伴うスーツ等の重衣料が苦戦したことや新規出店に伴う費用の増加等により27億8百万円(前年同期比46.9%減)となりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

ゲストハウスウエディングスタイルの挙式披露宴施設を展開している株式会社ラヴィスは、すべてのお客様に心からご満足いただけるブライダルサービスをご提供するため、人材の育成に注力するとともに、商品提案力の向上に努め、既存店の稼働率維持と経営の効率化を図りました。アニヴェルセル表参道は、開館より10周年を迎え、数々のイベントを実施するとともに、引き続き記念日のスペシャリティストアとして、自分らしく演出していただくための上質な商品とサービスを展開してまいりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は173億54百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益は期初に発生したのれんの償却額等が増加し、16億75百万円(前年同期比9.6%減)となりました。

(エンターテイメント事業)

カラオケルーム運営事業は、今年10周年を迎え、基本に立ち返った店舗運営を徹底するとともに、年末の繁忙期に向けて一次会からの忘年会等の宴会需要の対応強化と、店舗美化の維持、接客力向上及び既存サービスの磨き上げに注力いたしました。またグランドメニュー刷新や宴会メニューなどの投入により飲食の売上高が堅調に推移いたしました。複合カフェ運営事業は、引き続き安心してご利用いただくための設備点検、また顧客満足向上のためのコンテンツ企画等既存サービスの強化に注力するとともに、時宜を得たシーズンメニュー投入により引き続きフード売上が好調に推移いたしました。店舗面では、第3四半期累計でカラオケルーム運営事業で9店舗の新規出店と4店舗を閉鎖、複合カフェ運営事業は、10店舗の新規出店と2店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数はカラオケルーム運営事業で108店舗(前期末103店舗)、複合カフェ運営事業で111店舗(前期末103店舗)となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は165億14百万円(前年同期比11.9%増)、営業利益は期初に発生したのれんの償却額を吸収し10億29百万円(前年同期比9.5%増)となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

流動資産は、新規出店や季節的要因等により、たな卸資産が22億47百万円増加した一方、設備投資や借入金の返済等により現金及び預金が22億44百万円、季節的要因等により売掛金が8億50百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ7億12百万円減少いたしました。固定資産は、新規出店による固定資産の取得等により有形固定資産が35億23百万円及び敷金が13億15百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ45億99百万円増加いたしました。

流動負債は、法人税等の支払いによる未払法人税等が25億5百万円減少した一方、運転資金のための短期借入金が54億円、設備投資資金のための長期借入金のうち1年内返済予定の長期借入金が10億29百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ39億40百万円増加いたしました。固定負債は、長期借入金が23億35百万円増加する一方、社債の償還やのれんの発生を負ののれんと相殺表示したこと等により、前連結会計年度末と比べ3億99百万円減少いたしました。

純資産の部は、少数株主持分が23億3百万円減少した一方、株式交換等により資本剰余金が20億39百万円、四半期純利益等による利益剰余金が9億35百万円増加したこと等により3億45百万円増加しております。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、概ね平成20年11月7日の第2四半期決算発表時に開示した計画どおり推移しており、通期業績予想に変更はありません。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、平成20年4月1日を効力発生日として、当社より新設分割により設立した株式会社AOKI(特定子会社)及び株式会社オリヒカを連結の範囲に含めております。

### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 固定資産の減価償却の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

#### 法人税等の算定方法

税金費用については、一部の連結子会社において当連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を第1四半期連結会計期間から適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

#### 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成18年7月5日企業会計基準第9号)を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

なお、損益に与える影響はありません。

#### リース取引に関する会計基準の適用

「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成5年6月17日最終改正平成19年3月30日企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会平成6年1月18日最終改正平成19年3月30日企業会計基準適用指針第16号)を第1四半期連結会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。

また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

この結果、従来の方法によった場合に比べて、リース資産が有形固定資産に888百万円計上されております。なお、損益に与える影響は軽微です。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,209	17,454
売掛金	4,435	5,286
たな卸資産	17,372	15,124
その他	4,698	4,562
貸倒引当金	7	6
流動資産合計	41,708	42,420
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	41,956	39,288
土地	27,003	26,501
その他(純額)	6,994	6,641
有形固定資産合計	75,955	72,432
無形固定資産	4,135	4,041
投資その他の資産		
差入保証金	10,613	10,787
敷金	14,993	13,678
その他	9,083	9,287
貸倒引当金	84	129
投資その他の資産合計	34,606	33,624
固定資産合計	114,697	110,098
資産合計	156,405	152,519
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,363	14,759
短期借入金	5,400	-
1年内償還予定の社債	820	1,590
1年内返済予定の長期借入金	6,979	5,950
未払法人税等	2,135	4,640
賞与引当金	719	1,295
役員賞与引当金	90	108
その他	6,467	6,691
流動負債合計	38,976	35,036
固定負債		
社債	1,080	1,490
長期借入金	15,183	12,847
退職給付引当金	465	481
役員退職慰労引当金	879	837
ポイント引当金	576	622
負ののれん	2,581	5,367
その他	1,811	1,331
固定負債合計	22,578	22,977
負債合計	61,555	58,014

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	24,788	22,748
利益剰余金	52,332	51,397
自己株式	5,882	5,968
株主資本合計	94,521	91,460
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	92	472
評価・換算差額等合計	92	472
新株予約権	420	267
少数株主持分	-	2,303
純資産合計	94,850	94,504
負債純資産合計	156,405	152,519

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
(自平成20年4月1日  
至平成20年12月31日)

売上高	97,701
売上原価	53,321
売上総利益	44,380
販売費及び一般管理費	39,010
営業利益	5,370
営業外収益	
受取利息	72
受取配当金	69
不動産賃貸料	669
負ののれん償却額	731
その他	298
営業外収益合計	1,840
営業外費用	
支払利息	202
不動産賃貸費用	638
その他	253
営業外費用合計	1,095
経常利益	6,115
特別利益	
貸倒引当金戻入額	0
固定資産売却益	6
役員退職慰労引当金戻入額	10
特別利益合計	17
特別損失	
差入保証金・敷金解約損	69
固定資産除却損	124
投資有価証券評価損	110
減損損失	563
その他	44
特別損失合計	913
税金等調整前四半期純利益	5,219
法人税等	2,925
四半期純利益	2,294

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	5,219
減価償却費	3,661
減損損失	563
のれん償却額	535
負ののれん償却額	731
退職給付引当金の増減額(は減少)	15
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	42
ポイント引当金の増減額(は減少)	46
受取利息及び受取配当金	142
支払利息	202
差入保証金・敷金解約損	69
有形固定資産除却損	80
投資有価証券評価損益(は益)	110
売上債権の増減額(は増加)	850
たな卸資産の増減額(は増加)	2,247
仕入債務の増減額(は減少)	1,451
その他	492
<b>小計</b>	<b>9,113</b>
利息及び配当金の受取額	105
利息の支払額	187
法人税等の支払額	5,624
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,406</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	6,693
無形固定資産の取得による支出	296
敷金及び保証金の差入による支出	2,231
投資有価証券の取得による支出	291
投資有価証券の売却による収入	20
信託受益権の純増減額(は増加)	56
その他	192
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>9,357</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額(は減少)	5,400
長期借入れによる収入	8,000
長期借入金の返済による支出	4,635
社債の償還による支出	1,180
自己株式の処分による収入	22
自己株式の取得による支出	2,698
配当金の支払額	1,358
少数株主への配当金の支払額	37
その他	105
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,406</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,544
現金及び現金同等物の期首残高	17,254
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,709

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	ファッション事業 (百万円)	アニヴェルセル・ブライダル事業 (百万円)	エンターテイメント事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	63,832	17,354	16,514	97,701		97,701
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	6	0	10	(10)	
計	63,836	17,360	16,515	97,712	(10)	97,701
営業利益	2,708	1,675	1,029	5,413	(43)	5,370

(注) 1 事業区分は、商品の種類・性質等の類似性を考慮して区別しております。

2 各事業区分の主要な内容

ファッション事業 . . . . . スーツ等主にメンズ衣料の販売  
 アニヴェルセル・ブライダル事業 . . . . . ブライダル関連のサービス等の提供  
 エンターテイメント事業 . . . . . カラオケルーム等のエンターテイメント施設の運営

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)において、本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)において、海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

当社と連結子会社の株式会社ヴァリック及び株式会社ラヴィスは、平成20年4月1日を効力発生日として当社を完全親会社、株式会社ヴァリック及び株式会社ラヴィスを完全子会社とする株式交換を実施いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が2,061百万円増加し、自己株式が2,873百万円減少しております。

また、当社は平成20年11月7日開催の取締役会決議により、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき自己株式を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間において自己株式を2,694百万円取得し、当第3四半期連結会計期間末の自己株式は5,882百万円となっております。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第3四半期連結累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年12月31日)
売上高	94,035
売上原価	50,534
売上総利益	43,500
販売費及び一般管理費	35,634
営業利益	7,865
営業外収益	1,654
営業外費用	1,301
経常利益	8,219
特別利益	97
特別損失	552
税金等調整前四半期純利益	7,763
税金費用	3,374
少数株主利益	360
四半期純利益	4,028

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)
区分	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	
1 税金等調整前四半期純利益	7,763
2 減価償却費	3,207
3 減損損失	231
4 売上債権の減少額	21
5 たな卸資産の増加額	2,021
6 仕入債務の増加額	2,387
7 その他	992
小計	10,597
8 法人税等の支払額	3,610
9 その他	75
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,911
投資活動によるキャッシュ・フロー	
1 有形固定資産の取得による支出	7,845
2 保証金・敷金の差入による支出	1,416
3 信託受益権の純増加額	470
4 その他	835
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,567
財務活動によるキャッシュ・フロー	
1 長期借入による収入	5,700
2 長期借入の返済による支出	4,297
3 社債の償還による支出	480
4 その他	1,022
財務活動によるキャッシュ・フロー	99
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の減少額	3,755
現金及び現金同等物の期首残高	18,862
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,106

(3) セグメント情報

[ 事業の種類別セグメント情報 ]

前第3四半期連結累計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)

	ファッション事業 (百万円)	アニヴェルセル・ブライダル事業 (百万円)	エンターテイメント事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高	63,465	15,811	14,760	1	94,038	(3)	94,035
営業費用	58,362	13,957	13,820	55	86,195	(26)	86,169
営業利益又は 営業損失( )	5,103	1,854	939	54	7,842	23	7,865

(注) 1 事業区分は、商品の種類・性質等の類似性を考慮して区別しております。

2 各事業区分の主要な内容

- |                 |        |                         |
|-----------------|--------|-------------------------|
| ファッション事業        | ・・・・・・ | スーツ等主にメンズ衣料の販売          |
| アニヴェルセル・ブライダル事業 | ・・・・・・ | ブライダル関連のサービス等の提供        |
| エンターテイメント事業     | ・・・・・・ | カラオケルーム等のエンターテイメント施設の運営 |
| その他の事業          | ・・・・・・ | 保険商品の代理販売他              |

[ 所在地別セグメント情報 ]

前第3四半期連結累計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)において、本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[ 海外売上高 ]

前第3四半期連結累計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)において、海外売上高がないため、該当事項はありません。